

# 「#7119」の早期実施を提言 よりつながりやすい小児医療相談体制を

神奈川県内の救急車による救急搬送人員数は、令和3年で40万件を超えていますが、そのうち約4割が入院治療の不要な軽症者というデータがあります。

この状態が続くと、本当に必要な人のところにただちに救急車が向かえないことになってしまいます。国は、救急医療体制を維持するために、「救急車を呼ぶかどうか」の判断に迷った時にアドバイスを受けられる「救急医療に関する電話相談」ダイヤル「#7119」を導入するよう、全国の自治体に求めています。

県内では、横浜市が先行して、この「#7119」事業を実施していますが、他地域では展開されていませんでした。

そこで、公明党神奈川県議会議員団は、「#7119」を全県に拡大して実施するよう、平成28年に県議会で初めて提言して以来、繰り返し議会で取り上げてきました。

このたび長年の取組が実り、2023年11月の知事会見で、「#7119」を県が実施主体となって、全県展開する方針で市町村や関係団体と調整を始めたとの発表がありました。現在、令和6年度中の実施に向けて、関係部署が調整を行っています。

7年間にわたる提案が、ようやく実現に向けて動き出したわけですが、全県展開するにあたり、応答率など、多くの相談にしっかりと対応できる体制としなければなりません。

そこで、わが会派は、「#7119」の早期実施を求めるとともに、以下の2点を提案しました。

①現在、全県展開されている「子ども医療相談事業#8000」はつながりにくいうえに夜間だけの対応であるため、「#7119」でも小児医療相談ができるようにする。

②コロナ下で活用した「LINEコロナバーソナルサポート」や、療養の際の「AIコール」などのデジタル技術を用い、より医療相談がつながりやすい体制を作る。

今後も皆様にとってよりよい仕組みとなるよう、継続して取り組んでまいります。

公明党

神奈川県議会議員



おだ 幸子さん

## プロフィール

藤沢市辻堂東海岸在住  
明治大学政治経済学部・日本工業大学  
専門職大学院卒業

2014年乳がんの手術を受ける。働きながら再発防止のホルモン療法を5年間続け、その間、副作用に悩みながらも中小企業診断士の資格に挑戦し合格。専門職大学院の客員教授も務めた。現在は寛解

2023年4月の神奈川県議会議員選挙に初当選

家族は夫と大学生の息子

- ・環境農政常任委員会委員
- ・産業振興・環境対策特別委員会委員
- ・決算特別委員会委員
- ・公明党神奈川県議会議員団 政務調査副会長

ご意見ください

## 【連絡先】

神奈川県議会公明党控室

TEL 045-210-7630

HP・SNS <https://lit.link/odasatiko>

HP・SNSは  
こちらから



<https://s-el.jp/k/os>